



2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年1月31日

上場会社名 日本化薬株式会社
 コード番号 4272 URL <https://www.nipponkayaku.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 涌元 厚宏
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 グループ経理本部 経理部長 (氏名) 川村 勉 (TEL) 03-6731-5842
 四半期報告書提出予定日 2023年2月8日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト、機関投資家向け)

上場取引所 東

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	153,627	11.2	19,062	9.9	20,994	11.8	15,241	8.4
2022年3月期第3四半期	138,095	9.9	17,339	47.1	18,781	54.6	14,058	56.7

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 17,699百万円(△0.2%) 2022年3月期第3四半期 17,743百万円(24.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	90.62	90.60
2022年3月期第3四半期	83.10	83.09

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	331,405	255,714	76.9
2022年3月期	315,459	246,425	77.8

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 254,741百万円 2022年3月期 245,479百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	15.00	—	25.00	40.00
2023年3月期	—	20.00	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	20.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	210,000	13.6	23,800	13.1	26,600	14.9	19,400	12.9	115.31

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無

② ①以外の会計方針の変更： 無

③ 会計上の見積りの変更： 無

④ 修正再表示： 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期3Q	170,503,570株	2022年3月期	170,503,570株
② 期末自己株式数	2023年3月期3Q	2,960,258株	2022年3月期	2,257,985株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期3Q	168,186,975株	2022年3月期3Q	169,174,386株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（四半期決算補足説明資料の入手方法について）

2023年1月31日（火）に証券アナリスト及び機関投資家向けにテレフォンカンファレンスを開催する予定であります。使用する資料等は、当社ウェブサイトに掲載する予定であります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(2022年4月1日から2022年12月31日まで)の世界経済は、新型コロナウイルス感染症による影響からの正常化が見られた一方で、ロシアのウクライナ侵攻、燃料・資源高による世界的なインフレ進行、中国におけるゼロコロナ政策などにより一層不透明感が増しました。

このような状況の中、当社グループは本年度より新中期事業計画“**KAYAKU Vision 2025**”をスタートし、事業ごとに定めた「ありたい姿=Vision」に向けたロードマップを実行するとともに、ありたい姿実現に向けて定めた全社重要課題に対し取り組みを進めています。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、医薬事業が前年同四半期を下回ったものの、機能化学品事業、セイフティシステムズ事業及びその他事業が前年同四半期を上回ったことにより、1,536億2千7百万円となり、前年同四半期に比べ155億3千2百万円(11.2%)増加しました。

営業利益は、190億6千2百万円となり、前年同四半期に比べ17億2千2百万円(9.9%)増加しました。

経常利益は、209億9千4百万円となり、前年同四半期に比べ22億1千2百万円(11.8%)増加しました。

親会社株主に帰属する四半期純利益は、152億4千1百万円となり、前年同四半期に比べ11億8千2百万円(8.4%)増加しました。

セグメントごとの業績は次のとおりであります。

【機能化学品事業】

売上高は654億3千3百万円となり、前年同四半期に比べ68億8千8百万円(11.8%)増加しました。

機能性材料事業は、半導体関連部材となるエポキシ樹脂が民生向けに当第3四半期に需要が落ち込んだものの、MEMS等の複合材が好調に推移したことにより、機能性材料事業全体で前年同四半期を上回りました。

色素材料事業は、コンシューマ用インクジェットプリンタ用色素及びテキスタイル用染料が減速したものの、産業用インクジェットプリンタ用色素・インクの市況が回復基調にあり、色素材料事業全体で前年同四半期を上回りました。

触媒事業は国内、輸出ともに受注が好調に推移したことにより前年同四半期を上回りました。

ポラテクノ事業は、染料系偏光フィルムが低調に推移したものの、X線分析装置用部材が堅調に推移し、また外貨建て売上の為替が有利となったことにより、ポラテクノ事業全体で前年同四半期を上回りました。

セグメント利益は機能性材料事業、触媒事業の売上高が増加したことにより100億6千7百万円となり、前年同四半期に比べ5億2千7百万円(5.5%)増加しました。

【医薬事業】

売上高は392億9千3百万円となり、前年同四半期に比べ4億5千3百万円(1.1%)減少しました。

国内向け製剤は、2022年8月に血液がんに対する新薬「ダルビラス®点滴静注用」を上市し、ジェネリック抗がん薬「ペメトレキセド点滴静注液」、光線力学診断用剤「アラグリオ®顆粒剤分包」が伸長したものの、薬価改定の影響を受け、前年同四半期を下回りました。

国内向け原薬、輸出は、前年同四半期を上回ったものの、受託事業、診断薬は前年同四半期を下回りました。

セグメント利益は69億4千4百万円となり、前年同四半期に比べ4千6百万円(0.7%)増加しました。

【セイフティシステムズ事業】

売上高は409億5千1百万円となり、前年同四半期に比べ76億7千9百万円(23.1%)増加しました。

国内事業は、半導体不足等の影響による自動車の減産を受け需要が低調に推移したことにより、シートベルトプリテンショナー用マイクロガスジェネレータは前年同四半期を上回ったものの、エアバッグ用インフレーターは前年同四半期を下回り、国内事業全体で前年同四半期を下回りました。

海外事業は、世界的なインフレ進行や半導体不足の影響を受ける一方で、各国の各種政策等により新型コロナウイルス感染症拡大の影響による世界的な需要低迷からの回復が続き、エアバッグ用インフレーター、シートベルトプリテンショナー用マイクロガスジェネレータ、スクイブは前年同四半期を上回りました。

セグメント利益は需要の回復及び為替の影響による売上高の増加により、61億6千5百万円となり、前年同四半期に比べ14億4千7百万円(30.7%)増加しました。

【その他】

売上高は79億4千9百万円となり、前年同四半期に比べ14億1千7百万円(21.7%)増加しました。

アグロ事業は国内、輸出とも前年同四半期を上回りました。

不動産事業は、前年同四半期並となりました。

セグメント利益は15億3千6百万円となり、前年同四半期に比べ1億2千1百万円(8.6%)増加しました。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

総資産は3,314億5百万円となり、前連結会計年度末に比べ159億4千5百万円増加しました。主な増加は、原材料及び貯蔵品81億1千万円、商品及び製品73億6千2百万円、受取手形及び売掛金36億3千1百万円、現金及び預金30億5千5百万円、主な減少は有価証券89億6千5百万円であります。

負債は756億9千1百万円となり、前連結会計年度末に比べ66億5千7百万円増加しました。主な増加は短期借入金74億2千8百万円、支払手形及び買掛金53億4百万円であり、主な減少は1年内償還予定の社債40億円であります。

純資産は2,557億1千4百万円となり、前連結会計年度末に比べ92億8千8百万円増加しました。主な増加は利益剰余金76億6千7百万円、為替換算調整勘定33億1千万円であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の当社グループを取り巻く経営環境は、新型コロナウイルス感染症による影響からの更なる正常化が期待されます。一方でロシアのウクライナ侵攻、燃料・資源高による世界的なインフレ進行、円安の是正などにより景気の下振れリスクがあります。

このような状況において、当社グループは事業環境の変化に対応し、株主価値を高める経営資本の最適化を進め、グローバルな成長市場で既存ビジネスの拡大と新事業・新製品の展開を加速させ、収益の拡大を図ってまいります。

なお、2023年3月期の業績予想につきましては、2022年7月29日に公表いたしました予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	38,459	41,514
受取手形及び売掛金	60,719	64,350
電子記録債権	1,868	2,469
有価証券	15,186	6,220
商品及び製品	36,784	44,146
仕掛品	1,149	950
原材料及び貯蔵品	17,901	26,012
その他	3,832	4,946
貸倒引当金	△57	△54
流動資産合計	175,843	190,556
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	43,469	43,716
機械装置及び運搬具（純額）	26,923	26,221
その他（純額）	18,667	19,804
有形固定資産合計	89,060	89,742
無形固定資産		
のれん	3,016	2,624
その他	4,569	4,166
無形固定資産合計	7,586	6,790
投資その他の資産		
投資有価証券	33,511	34,767
退職給付に係る資産	4,572	4,716
その他	4,949	4,894
貸倒引当金	△63	△62
投資その他の資産合計	42,970	44,316
固定資産合計	139,616	140,849
資産合計	315,459	331,405

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	18,011	23,316
短期借入金	3,176	10,605
1年内償還予定の社債	4,000	-
未払金	9,617	9,745
未払法人税等	2,997	1,995
その他	7,956	6,910
流動負債合計	45,760	52,573
固定負債		
社債	8,000	8,000
長期借入金	1,474	800
退職給付に係る負債	380	439
その他	13,419	13,877
固定負債合計	23,273	23,117
負債合計	69,034	75,691
純資産の部		
株主資本		
資本金	14,932	14,932
資本剰余金	15,759	15,794
利益剰余金	195,566	203,233
自己株式	△2,624	△3,463
株主資本合計	223,633	230,498
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	9,818	9,164
為替換算調整勘定	10,630	13,940
退職給付に係る調整累計額	1,396	1,138
その他の包括利益累計額合計	21,846	24,243
非支配株主持分	945	973
純資産合計	246,425	255,714
負債純資産合計	315,459	331,405

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	138,095	153,627
売上原価	89,883	100,640
売上総利益	48,211	52,986
販売費及び一般管理費	30,871	33,924
営業利益	17,339	19,062
営業外収益		
受取利息	123	381
受取配当金	777	852
持分法による投資利益	271	-
為替差益	54	517
その他	534	611
営業外収益合計	1,761	2,362
営業外費用		
支払利息	77	95
持分法による投資損失	-	47
その他	241	287
営業外費用合計	319	430
経常利益	18,781	20,994
特別利益		
固定資産売却益	1,392	479
投資有価証券売却益	183	413
持分変動利益	-	123
特別利益合計	1,575	1,015
特別損失		
固定資産処分損	445	385
投資有価証券評価損	57	3
特別損失合計	503	388
税金等調整前四半期純利益	19,854	21,621
法人税、住民税及び事業税	4,208	5,209
法人税等調整額	1,531	1,116
法人税等合計	5,740	6,325
四半期純利益	14,114	15,296
非支配株主に帰属する四半期純利益	55	54
親会社株主に帰属する四半期純利益	14,058	15,241

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	14,114	15,296
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△23	△654
為替換算調整勘定	3,687	3,316
退職給付に係る調整額	△31	△259
持分法適用会社に対する持分相当額	△3	1
その他の包括利益合計	3,629	2,403
四半期包括利益	17,743	17,699
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	17,634	17,638
非支配株主に係る四半期包括利益	109	61

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額 (注)3
	機能化学 品事業	医薬事業	セイフティ システムズ 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	58,545	39,746	33,272	131,563	6,531	138,095	—	138,095
セグメント間の内部売上 高又は振替高	106	0	—	106	78	184	△184	—
計	58,651	39,746	33,272	131,670	6,610	138,280	△184	138,095
セグメント利益	9,539	6,898	4,718	21,156	1,414	22,571	△5,231	17,339

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、アグロ事業及び不動産事業を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△5,231百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△5,237百万円及びセグメント間取引消去5百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額 (注)3
	機能化学 品事業	医薬事業	セイフティ システムズ 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	65,433	39,293	40,951	145,678	7,949	153,627	—	153,627
セグメント間の内部売上 高又は振替高	122	0	—	122	82	204	△204	—
計	65,555	39,293	40,951	145,800	8,032	153,832	△204	153,627
セグメント利益	10,067	6,944	6,165	23,177	1,536	24,714	△5,652	19,062

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、アグロ事業及び不動産事業を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△5,652百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△5,673百万円及びセグメント間取引消去21百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。